

◆「第26回日本プロ音楽録音賞」

今年で第26回を迎えた日本プロ音楽録音賞、12月6日(金)半蔵門・TOKYO FM ホールで開催した授賞式にて、優秀賞・最優秀賞、審査員特別賞、アナログディスク特別賞、ベストパフォーマー賞、ニュー・プロミネントマスター賞の発表がされ、表彰された。

日本プロ音楽録音賞とは、音楽文化と産業の発展の一翼を担う録音エンジニアが制作し応募した音楽録音作品について、エンジニアが有する音楽に対する感性、技術力等を評価することにより、授賞対象優秀作品および最優秀作品並びにベストパフォーマー賞、ニュー・プロミネントマスター賞を選定し、これに携わり制作を担ったエンジニアおよびベストパフォーマーのアーティストを顕彰することでエンジニアの技術の向上と次世代エンジニアの発掘を図ることを目的とし、表彰を行うもので、1994年に第1回がスタートした。

「第26回日本プロ音楽録音賞」受賞作品一覧

■ CD 部門 「クラシック、ジャズ、フュージョン」

最優秀賞 「ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番/ピアノ・ソナタ第2番」(COCQ-85458) より「ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番より第3楽章」

反田恭平(ピアノ)アレクサンドル・スラドコフスキー(指揮)ロシア・ナショナル管弦楽団 発売元：日本コロムビア(株)

CD 塩澤利安(Mixing Engineer)日本コロムビア(株)

佐藤洋(Mastering Engineer)日本コロムビア(株)

優秀賞 「Pioggia」(CHYR-001) より「Pioggia」Hitoshi Nakajima 発売元：(株)ディスクユニオン CD

今関邦裕(Mixing&Mastering Engineer)(株)サウンド・シティ

青木礼門(Assistant Engineer)(株)サウンド・シティ

■ CD 部門 「ポップス、歌謡曲」

最優秀賞：「POP VIRUS」(VICL-65085) より「Pop Virus」星野源 発売元：(株)JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント CD 渡辺省二郎(Mixing Engineer)(株)レインボーエンタテインメント 内田孝弘(Mastering Engineer)(株)JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント

優秀賞：「FUTURE」(RZCD-86904) より「ZERO GRAVITY」I DON'T LIKE MONDAYS.

エイベックス・エンタテインメント(株) CD 安達義規(Mixing Engineer)(株)ミキサーズラボ 酒井秀和

(Mastering Engineer)(株)ソニー・ミュージックソリューションズ 近藤麻衣(Assistant Engineer)(株)スキップ

ファクトリー ランドマークスタジオ 後藤真太郎(Assistant Engineer)(株)ミキサーズラボ

■ハイレゾリューション部門「クラシック、ジャズ、フュージョン」

最優秀賞：「ViVa The Four Seasons (A.Vivaldi Concerto NO-1_NO-04)」より「Summer MOV-03」UNAMAS Strings Sextet

発売元：(有)沢口音楽工房 UNAMASレーベル 配信元：

e-onkyo music、mora フォーマット：192kHz/24bit 5.1ch 沢口真生(Mixing&Mastering Engineer)(有)沢口音楽工房 伊藤仁(System Engineer)(株)シンタックスジャパン 宮下清孝(System Engineer)(株)JION(慈音)

優秀賞：「Orb」より「Lenna」Miyu Hosoi 発売元：Salvaged Tapes 配信元：OTOTOY フォーマット：96kHz/24bit 5.0ch(オリジナル22.0ch)蓮尾美沙希(Mixing Engineer)(株)WOWOW 葛西敏彦(Mixing Engineer)studio ATLIO/Oasis Sound Design Inc.久保二郎(System Engineer)(株)アコースティックフィールド

■ハイレゾリューション部門「ポップス、歌謡曲」

最優秀賞：「新自分風土記I～望郷篇～」より「長崎小夜曲」さだまさし 発売元：(株)JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント 配信元：e-onkyo music、mora フォーマット：96kHz/24bit 2ch 三浦克浩(Mixing Engineer)(有)ジェニユイン 吉良武男(Mastering Engineer)(株)テイチクエンタテインメント 中内茂治(Recording Engineer)(株)音響ハウス

優秀賞：「camomile colors」より「Just When I Needed You Most」藤田恵美 発売元：HD Impression 配信元：e-onkyo music、mora フォーマット：192kHz/24bit 2ch

阿部哲也(Mixing Engineer) HD Impression 内野太亮(Second Engineer)(株)音響ハウス 金井隆(Sound Quality Engineer)かないまる

■放送部門「2ch ステレオ」

優秀賞：「第60回輝く！日本レコード大賞」より「アイノカタチ feat.HIDE (GReeeeN)」MISIA TBS HDTV stereo 2018年12月30日放送 森和哉(Mixing Engineer)(株)TBSテレビ 相馬敦(Second Engineer)(株)TBS テック

ス 中村全希(Second Engineer)(株)TBSテレビ 田中聖二(Second Engineer)(株)毎日放送

優秀賞：「第69回NHK紅白歌合戦」より「アイノカタチ feat. HIDE (GReeeeN) ～つつみ込むように・・・」MISIA 日本放送協会 HDTV stereo 2018年12月31日放送 永田隆信(Mixing Engineer)日本放送協会 吉田英人(Second Engineer)日本放送協会 志村宏(Second Engineer)日本放送協会 山田美慧(Floor Chief)日本放送協

審査員特別賞：「オペラ・ファンタスティカ/宮崎国際音楽祭 歌劇「ボエーム」」より「歌劇「ボエーム」第2幕」指揮：広上淳一 宮崎国際音楽祭管弦楽団 日本放送協会 FM stereo

2019年8月30日放送 篠なほ子(Mixing Engineer)(株)ネオテック 山縣淳一(Second Engineer)(株)NHKテクノロジーズ

■放送部門「マルチch サラウンド」

最優秀賞：「SHIBUYA NOTE Presents Nulbarich -A STORY-」より「Super Sonic」Nulbarich 日本放送協会 4K UHD TV 5.1ch 2019年9月23日放送 柳谷智章



第26回日本プロ音楽録音賞、受賞の皆様

(Mixing Engineer) 日本放送協会 桐原 麻美 (Floor Chief) 日本放送協会

優秀賞:「プレミアムシアター」より「ラロ作曲「(ペイン交響曲二短調作品 21 第 5 楽章)」 ヴァイオリン: クリスティアン・テツラフ 指揮: 井上道義 NHK 交響楽団

日本放送協会 HDTV 5.0ch 2018年10月22日放送 山縣 淳一 (Mixing Engineer) (株) NHK テクノロジーズ 矢島 諭 (Second Engineer) (株) ネオテック 篠 なほ子 (Second Engineer) (株) ネオテック 満尾 智子 (Second Engineer) 日本放送協会

■アナログディスク特別賞

MIXER'S LAB SOUND SERIES Vol.3」(SSAR-036 ~ 037)より「モーニン」角田健一ビッグバンド
発売元: (株) ミキサーズラボ 30cm 33 回転
北村 勝敏 (Cutting Engineer)
(株) ミキサーズラボ / ワーナーミュージック・マスタリング

■ベストフォーマー賞

「森羅十二象」(ONL-11)より「モンゴル草原」岡林 信康
発売元: (株) ディスクユニオン CD

■ニュー・プロミネントマスター賞

「涙と祈り (Tears and Prayers)」より
「エレジー (Elegy for solo marimba)」名倉誠人
発売元: (株) オクタヴィア・レコード
フォーマット: 96kHz/24bit 5.0ch (オリジナル 9.0ch)
入交 英雄 (Mixing Engineer) (株) WOWOW
「Orb」より「Lenna」 Miyu Hosoi
発売元: Salvaged Tapes
フォーマット: 96kHz/24bit 5.0ch (オリジナル 22.0ch)
蓮尾 美沙希 (Mixing Engineer) (株) WOWOW

第26回日本プロ音楽録音賞 審査委員

総合審査委員長 内沼 映二、副審査委員長 高田 英男、高橋 邦明
CD 部門、ハイレゾリューション部門審査委員 (アナログディスク特別賞含む) 内沼 映二、岡部 潔、川澄 伸一、椎名 和夫、清水 三義、高田 英男、高橋 邦明、照井 和彦、増田 晋、松武 秀樹、三浦 瑞生、森元 浩二、山田 幹朗、脇田 貞二、渡辺 昭人

放送部門審査委員 深田 晃、芝本 孝幸、鈴木孝十郎、高橋 正勝、中島 博和、松永 英一

主催: 一般社団法人 日本オーディオ協会、一般社団法人 日本音楽スタジオ協会、特定非営利活動法人 日本レコーディングエンジニア協会、一般社団法人 日本レコード協会、一般社団法人 演奏家権利処理合同機構 MPN

後援: 済産業省

協賛: NHK、一般社団法人 日本民間放送連盟、株式会社ステレオサウンド

賛助: サウンドレコーディング・マガジン、CD ジャーナル、レコード芸術、ステレオサウンド、プロサウンド、オーディオアクセサリー、アナログ、ステレオ

協力: NPO 法人ミュージックソムリエ協会、(株) レーベルゲート / mora、オンキヨー (株) / e-onkyo music、オトトイ (株) / OTOTOY、(株) ソニー・ミュージックソリューションズ、(株) JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント、(株) サウンドインスタジオ、(株) ジェネレックジャパン、(株) ミキサーズラボ / ワーナーミュージック・マスタリング、ミックスウェーブ (株)、東放学園音響専門学校、日本コロムビア (株)、(株) キング関口台スタジオ、(株) JVC ケンウッド・クリエイティブメディア

◆ Society 5.0 に向けた JEITA の取り組み ～ JEITA 遠藤会長の記者会見～

2019年12月18日(水)、JEITA 会長・遠藤信博氏の記者会見が行われ、「電子情報産業の世界生産見通し」が発表された。

遠藤信博氏(日本電気株式会社取締役会長)は、JEITA(一般社団法人電子情報技術産業協会)の代表理事・会長に、今年5月に就任した。

会見の概要は、Society 5.0の実現に向けたJEITAのこれからの取り組みについて、業界動向として今回JEITAが発表した「電子情報産業世界生産見通し」を中心に発表が行われた。

此処には、来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックや、2025年の大阪・関西万博を控えた産業界の期待が示されている。

JEITAは、Society 5.0(註)の実現を基本方針として、コンピューティングパワー(スーパーコンピュータの処理性能の向上)、5Gによるネットワーク(モバイルネットワークの高速、大容量、低遅延など)、AIによるデータ処理(デジタルデータ量の増大)などの組み合わせによる、情報社会からデータ社会への移行による新しい価値創出に向けた取り組みに注力して行くとしている。

今回発表された「電子情報産業の世界生産見通し」に加えて、注目分野として「5Gの世界需要額見通し」を発表した。(発表内容の詳細については、JEITAのホームページ(<https://www.jeita.or.jp/japanese/>)に掲載されている。

特に注目されるのは、情報化社会からデータ社会への移行における第五世代移動通信システム、いわゆる5Gシステムを、Society 5.0の基幹インフラとして位置づけた取り組みが進められることである。

同じ18日に発表された「令和2年度与党税改正大綱」において、5G投資促進税制の創設が明らかにされている。特に、国内ローカル5Gは、2020年に立ち上がり、2025年には3000億円規模になると見込まれている。

「ローカル5G」は、クローズドな空間でプライベートに活用できるモバイルシステムで、無線による多様な現場での活用が見込まれている。イベント会場や工場、学校、病院などでのIoTシステムへの活用が期待されている。また、5Gの機能が現在のメディアに加わることによる、メディアの変革も始まると共に、新しいコンテンツを生み出すことにもつながるものと言える。

JEITAが主催するCEATECやInterBEEにおける次世代を担う学生たちへのアプローチも積極的に行われている。最も喫緊の課題であるIT分野への人材育成への取り組みが、産業界と教育界の連携が強化されることにより、世界に向けた新しいシステムの創出にも寄与するものと言え、これらの活動への取り組みも期待される。(註) Society 5.0とは、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)」と定義付けられている。

狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、政府の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。



JEITA 遠藤会長(中央)の記者会見(12月18日) 写真提供 JEITA
(https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)
内閣府ホームページより

Hideichi Tamegaya

メディア・テクノロジー・コンサルタント

◆ CP+ (シーピープラス) 2020

■ 開催日程：2020年2月27日(木)～3月1日(日)
2月27日(木) 12:00～18:00(※9:50～12:00 プレスタイム)
2月28日(金)・29日(土) 10:00～18:00
3月1日(日) 10:00～17:00

※プレスタイムはプレス関係者および特別招待者にご覧いただけます。

※先行入場招待券をお持ちの方は2月27日(木)10:00より入場されます。

■ 会場：パシフィコ横浜(展示ホール、アネックスホール、会議センター) / 大さん橋ホール

■ 入場料：1,500円(税込)(ウェブ事前登録で無料)
障がいがある事を証明する手帳を持参の方、小学生以下の方は無料

■ 主催：一般社団法人 カメラ映像機器工業会(CIPA)

■ 協賛：一般社団法人 日本写真映像用品工業会

■ 後援：経済産業省/観光庁/神奈川県/横浜市/横浜商工会議所/日本貿易振興機構(ジェトロ)

■ 特別協力：日本カメラ博物館/日本新聞博物館/横浜美術館

■ 協力：公益社団法人応用物理学会/カメラ記者クラブ/関東写真館協会/東京写真記者協会/日本営業写真機材協会/一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会/一般財団法人日本カメラ財団/一般社団法人日本光学会/公益社団法人日本広告写真家協会/益社団法人日本写真家協会/一般社団法人日本写真学会/協同組合日本写真館協会/公益社団法人日本写真協会/一般社団法人日本写真文化協会/一般社団法人日本電子回路工業会/日本フォトイメージング協会/一般社団法人日本望遠鏡工業会/パシフィコ横浜/公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー(50音順)

■ コーディネーター：凸版印刷株式会社

■ 主な出展分野

カメラ、レンズ、フォトアクセサリ、プリンター、画像処理ソフト、携帯機器、ディスプレイ、プロジェクター、フォトフィニッシング、フォトブック、プリントペーパー、スタジオ用品・機材など

■ 出展社数・来場者数(2019年12月18日現在)

・出展社数：135社・団体(共同出展18社含む) 前回124社・団体(共同出展15社を含む)

・出展小間数：1,124小間 前回1,148小間

(主催者ゾーン、メディアパートナー含む)

・来場者数(目標)：70,000人(前回69,615人)

◆ドルビージャパン：「スター・ウォーズ / スカイウォーカーの夜明け」公開記念 「ドルビー」の「スター・ウォーズ」特別トレーラーを限定上映！「ドルビーステレオ」から「ドルビーアトモス / ドルビーシネマ」へ

ドルビージャパン株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：大沢幸弘 以下、ドルビー）は、ドルビーシネマ 導入の「T・ジョイ博多」、「MOVIX さいたま」、「梅田ブルク7」、「丸の内ピカデリー」、そして12月20日（金）よりドルビーシネマが稼働開始となる「ミッドランドスクエア シネマ」、及びドルビーアトモス導入の「イオンシネマ」、「シネマサンシャイン」、「US シネマ」、「スターシアターズ」、「アースシネマズ」の劇場内において、シリーズ第1作「スター・ウォーズ / 新しい希望」から全9作品、脈々と続いてきた「スター・ウォーズ」シリーズとの42年間の系譜（以下）を綴った特別トレーラーを上映いたします。（一部劇場は、場内モニターでの放映。）

また、同シリーズを完結する最新作「スター・ウォーズ / スカイウォーカーの夜明け」が公開となる12月20日（金）以降は、上記劇場の公式ホームページ（一部除く）においてもご覧いただけます。

【「スター・ウォーズ」と「ドルビー」の系譜】

- 1978年「スター・ウォーズ エピソード 4/ 新たなる希望」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーステレオ」
- 1980年「スター・ウォーズ エピソード 5/ 帝国の逆襲」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーステレオ」
- 1983年「スター・ウォーズ エピソード 6/ ジェダイの帰還」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーステレオ」
- 1999年「スター・ウォーズ エピソード 1/ ファントム・メナス」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーデジタル サラウンド EX」
- 2002年「スター・ウォーズ エピソード 2/ クローンの攻撃」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーデジタル サラウンド EX」
- 2005年「スター・ウォーズ エピソード 3/ シスの復讐」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーデジタル サラウンド EX」
- 2015年「スター・ウォーズ / フォースの覚醒」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーアトモス」、「ドルビービジョン」
- 2017年「スター・ウォーズ / 最後のジェダイ」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーアトモス」、「ドルビービジョン」
- 2019年「スター・ウォーズ / スカイウォーカーの夜明け」公開
採用ドルビー技術：「ドルビーアトモス」、「ドルビービジョン」

「スター・ウォーズ / スカイウォーカーの夜明け」作品介绍

スカイウォーカー家の物語を描く「スター・ウォーズ」その42年の歴史に幕を下ろす完結編。

ジョージ・ルーカス監督によって生み出され、映画界における数々の金字塔を打ち立てた、エンターテインメント史で“伝説”と呼べる

唯一の映画「スター・ウォーズ」。

「スター・ウォーズ / フォースの覚醒」で全米興行収入ランキング歴代 No.1 新記録を樹立し、新たなる伝説の担い手として時代の寵児となった J.J. エイブラムスが再び監督を務め、スカイウォーカー家の“家族の愛と喪失”の物語は、2019年12月、ついに42年に渡る歴史に幕を下ろす。

祖父ダース・ベイダーの遺志を受け継ぎ、銀河の圧倒的支配者となったカイロ・レン。

伝説のジェダイ、ルーク・スカイウォーカーの想いを引き継ぎ、フォースの力を覚醒させたレイ。

そして、R2-D2、C-3PO、BB-8 ら忠実なドロイドと共に銀河の自由を求めて戦い続ける、生きる英雄レイア将軍、天才パイロットのポー、元ストームトルーパーのフィンら、レジスタンスの同志たち…。

はるか彼方の銀河系で繰り広げられる、スカイウォーカー家を中心とした壮大な「サーガ」の結末は、“光と闇”のフォースをめぐる最終決戦に託された――。

ドルビーシネマとは

ドルビーシネマは、最先端の映像技術「Dolby Vision®（ドルビービジョン）」と立体音響技術の「Dolby Atmos®（ドルビーアトモス）」を採用し、さらにシネマ体験に最適化されたシアターデザイン（インテリアカラー、空間デザイン、座席アレンジメント）がこれらの技術と一体となって、アクションやストーリーをより豊かに観客にお届けし、まるでスクリーン上の世界にいるような感覚を味わえます。現在、北米からヨーロッパ、中国に至るまでの世界中のエンタテインメント企業がドルビーシネマを採用しており、世界中の映画ファンから圧倒的な支持を得ています。

ドルビーラボラトリーズ（NYSE: DLB）は、サンフランシスコを拠点とし、世界の20か国以上にオフィスを展開しています。ドルビーは音響と映像の科学技術からスペクタクルな体験を作り出してきました。革新的な研究とエンジニアリングに加えて、アーティストから企業、消費者までの広範囲にわたる協力的なエコシステムを築くことにより、ドルビーは世界の数十億の人々に画期的な体験を届けています。ドルビービジョン、ドルビーアトモス、ドルビーシネマ、ドルビーボイス、ドルビーオーディオによる体験は、映画館、外出先、家庭、職場でのエンタテインメントとコミュニケーションに変革をもたらしています。

Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Cinema、Dolby Vision、およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの米国およびその他の国における登録商標です。その他は各社の登録商標または商標。

【問い合わせ先】

Dolby Japan Tel: 080-8814-7371 Fax: 03-3524-7389

e-mail: ikuo.nakayama@dolby.com

◆キャノンマーケティングジャパン：EOS C500 Mark II および関連アクセサリと Sumire Prime シリーズ 135mm の発売日が決定。

EOS C500 Mark II ボディー
2019年12月24日発売
JANコード 4549292-143676
商品コード 3794C001
本体標準価格オープン価格



■ EOS C500 Mark II

■関連ACC PLマウントキット PM-V1、EFシネマロックマウントキット CM-V1、有機EL電子ビューファインダー EVF-V50、拡張ユニット1 EU-V1、拡張ユニット2 EU-V2 LCDモニター LM-V2（本体付属品）、LCDアタッチメントユニット LA-V2（本体付属品）

■ CN-E135mm T2.2 FP X

EOS C500 Mark II システム

撮像素子：35mmフルサイズCMOSセンサー、有効画素数：約1869万画素 ISO感度：160-25600（拡張時100-102400）1段または1/3段設定 センサーモード：35mmフルサイズ/Super 35mm/Super 16mm レンズマウント：EFマウント（別売マウントキットによりPLまたはEF（シネマロック）に変更可能）

内蔵NDフィルター：5濃度（2stops/4stops/6stops/8stops ※/10stops ※）電動による駆動 ※拡張選択時

フォーカス

調整方法：連続AF※、ワンショットAF※、AFブーストMF※、顔検出AF※、マニュアルAF方式※：デュアルピクセルCMOS AF（マニュアルフォーカスを除き、いずれのモードもAF対応レンズのみ対応）※EFマウント/EFマウント（シネマロック）時

ガンマ：Nomal1、Wide DR、HLG、PQ、Canon Log 2、Canon Log 3 カラースペース：Cinema Gamut、BT.2020 Gamut、BT.709 Gamut

カスタムピクチャー設定（ガンマ/カラースペース）：

BT.709（Wide DR / BT.709 Gamut）

LOG（Canon Log 2 / Cinema Gamut）

HDR-PQ（HDR-PQ / BT.2020 Gamut）

HDR-HLG（HDR-HLG / BT.2020 Gamut）

USER5～USER20

ホワイトバランス：オート、太陽光、電球、色温度（2000K～15000K）、セットA/セットB（白取り込み）

記録メディア：CFexpressカード（2スロット）：動画（RAW/XF-AVC）、カスタムピクチャー設定、メタデータ、SDカード：動画（XF-AVC（プロキシ））、静止画（JPEG）、カスタムピクチャー

設定、メタデータ、メニュー等の記録が可能

記録モード：動画 CINEMA RAW LIGHT（5952×3140/4096×2160/2048×1080）

・映像：12bit（29.97P/25.00P/23.98P/24.00P）/10bit（59.94P/50.00P）、CRM

・音声：リニアPCM、24bit/48kHz/4CH

XF-AVC（4096×2160/3840×2160/2048×1080/1920×1080）

・映像：MPEG-4 AVC/H.264、YCC4：2：2 10bit、Intra-Frame、MXF

・音声：リニアPCM、24bit/48kHz/4CH

XF-AVC（プロキシ）（2048×1080）

・映像：MPEG-4 AVC/H.264、YCC4：2：0 8bit、Long GOP、MXF

・音声：リニアPCM、24bit/48kHz/4CH

静止画：DCF準拠、Exif Ver2.3準拠、静止画圧縮方式：JPEG

ビットレート：CINEMA RAW LIGHT 2.1Gbps：5952×3140 1Gbps：4096×2160 250Mbps：2048×1080 XF-AVC（Intra-Frame）

810Mbps：4096×2160/3840×2160、59.94P/50.00P
410Mbps：4096×2160/3840×2160、29.97P/25.00P /23.98P/24.00P

310Mbps：2048×1080/1920×1080、59.94P/50.00P
160Mbps：2048×1080/1920×1080、29.97P/25.00P /23.98P/24.00P/59.94i/50.00i

XF-AVC（プロキシ）

35Mbps：2048×1080、59.94P/50.00P

24Mbps：2048×1080、29.97P/25.00P/23.98P/24.00P

液晶モニター：LCDモニター LM-V2（付属品）4.3型、約276万ドット、視野率100%、静電容量式タッチパネル

ファインダー：なし

有機EL電子ビューファインダー EVF-V50（別売）または EVF-V70（別売）が使用可能

入・出力端子：本体

SDI-OUT 端子：BNC ジャック（出力のみ）、0.8Vp-p/75Ω、不平衡、12G-SDI（SMPTE ST 2082 準拠）、6G-SDI（SMPTE ST 2081 準拠）、3G-SDI（SMPTE 424、425、ST 299-2 準拠）、HD-SDI（SMPTE 292、ST 299-1 準拠）、エンベデッドオーディオ、タイムコード（VITC/LTC）

MON. 端子：BNC ジャック（出力のみ）、0.8Vp-p/75Ω、不平衡、3G-SDI（SMPTE 424、425、ST 299-2 準拠）、HD-SDI（SMPTE 292、ST 299-1 準拠）、エンベデッドオーディオ、タイムコード（VITC/LTC）

HDMI OUT 端子：HDMI（タイプA）、出力のみ、タイムコード

MIC 端子 φ3.5mm ステレオミニジャック、-65dBV（ボリュームオート、フルスケール 12 dB）/1.5kΩ以上 Att：20dB、プラグインパワー対応

INPUT1/2 端子：XLR 3 ピンジャック (①シールド、②ホット、③コールド)、2 系統、平衡

MIC 時：- 60dBu (マニュアルボリュームセンター /AUTO、フルスケール- 18dB) /600 Ω Att：20dB

LINE 時：+4dBu (マニュアルボリュームセンター、フルスケール- 18dB) /10k Ω

AES/EBU 時：AES3 規格 (48kHz/24bit/2ch) に対応 /110k Ω

ヘッドホン端子：φ 3.5mm ステレオミニジャック- 17dBV (32 Ω負荷、ボリューム最大) /50 Ω以下

REMOTE A 端子：φ 2.5mm ステレオミニミニジャック、入力のみ

USB 端子：mini-B、Hi-Speed USB、GP-E2 接続用

TIME CODE 端子 BNC ジャック (入出力兼用)、0.5 -18 Vp-p/100k Ω (入力時)、1.3Vp-p/50 Ω (出力時)

DC IN 12V 端子 XLR 4 ピン

その他端子

グリップユニット接続端子 (キヤノン独自仕様)

VIDEO 端子 (キヤノン独自仕様・特殊 13 ピンジャック)：LCD モニタ LM-V2 (付属品) 有機 EL 電子ビューファインダー EVF-V70 (別売) 接続用

拡張システム端子

拡張ユニットコネクタ (キヤノン独自仕様)：EVF-V50、拡張ユニット EU-V1/EU-V2 接続用

拡張ユニット EU-V1 (別売) 装着時 GENLOCK/SYNC 端子 BNC ジャック、1.0Vp-p/75 Ω

REMOTE B 端子 丸型 8 ピンジャック※ RC-V100 (別売) 接続用 (RS-422 通信用)

Ethernet 端子 Ethernet (イーサネット)、1000BASE-T 対応 拡張ユニット EU-V2 (別売) 装着時 INPUT3/4 端子 XLR 3

ピンジャック (①シールド、②ホット、③コールド)、2 系統、平衡 MIC 時：- 60dBu (マニュアルボリュームセンター、フルスケール- 18dB) /600 Ω Att：20dB

LINE 時：+4dBu (マニュアルボリュームセンター、フルスケール- 18dB) /10k Ω

GENLOCK/SYNC 端子：BNC ジャック、1.0Vp-p/75 Ω

REMOTE B 端子：丸型 8 ピンジャック※ RC-V100 (別売) 接続用 (RS-422 通信用)

Ethernet 端子：Ethernet (イーサネット)、1000BASE-T 対応

LENS 端子：丸型 12 ピン (シリアル通信用)

電源関連 DC OUT 24V 2A 端子：フィッシャーコネクタズ社製 3 ピンコネクタ、D-TAP コネクタ

電源・その他 電源電圧 DC IN 12V 端子：DC 11.5V - 20V、バッテリー端子：DC 14.4 V (バッテリーパック) DC 12V - 20V (EU-V2 による V マウントタイプバッテリー使用)

動作温度 性能保証条件：約 0℃～ 40℃ 85% (相対湿度)

作動保証条件：約 -5℃～ 45℃ 60% (相対湿度)

外形寸法 (幅×高さ×奥行き) (幅 x 高さ x 奥行き) (可撓生を有

するケーブルやグリップベルトを除いた寸法)

約 153 x 148 x 168 mm (6.0 x 5.8 x 6.6 in) [本体のみ]

約 183 x 148 x 189 mm (7.2 x 5.8 x 7.4 in) [本体 + カメラグリップ GR-V1]

約 343 x 277 x 333 mm (13.5 x 10.9 x 13.1 in) [本体 + カメラグリップ GR-V1、ハンドルユニット、マイクホルダーユニット、LCD モニタ LM-V2、LCD アタッチメントユニット LA-V2、拡張ユニット 2 EU-V2]

本体質量 (EF マウント)

約 1750g [カメラグリップ GR-V1、サムレストともになし]

※ 1 カスタムピクチャーファイル、設定データ、ユーザーメモの保存 / 読み込みにも使用。

※ 2 連続記録したときの記録時間の目安。

※ 3 一部の EF レンズは周辺光量補正に対応していません。

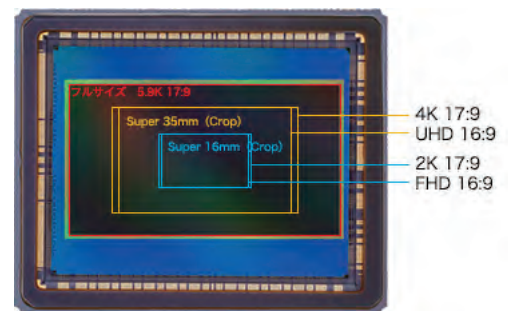
※ 各社 NLE へは順次対応予定

Cinema RAW Development

Cinema RAW Development は、キヤノン製のカメラで収録した Cinema RAW/Cinema RAW Light の映像素材に対応したソフトウェア。映像のプレビュー、各種現像パラメータの設定やワークフローに応じたフォーマットへのエクスポート等を行うことができ、対応 GPU を搭載した PC にて RAW 素材のリアルタイム再生も可能です。EOS C500 Mark II に搭載されている 5.9K Cinema RAW Light の現像に対応する、Ver.2.4 を後日リリース予定。

【特長】 5.9K フルサイズセンサー

上位モデルと同じフルサイズセンサー (38.1 × 20.1mm) を搭載。フルサイズ読み出しの他に、スーパー 35mm (Crop)、スーパー 16mm (Crop) での読み出しが可能。フルサイズ時には 5.9K の RAW 記録が可能。最大 60P までのフレームレートが選択できる。また、スーパー 35mm (Crop) 時には 4K/60P まで、スーパー 16mm (Crop) 時には 2K 解像度で 120P までの撮影が可能。ISO 感度は ISO 160 ~ ISO 25600 までの設定の他、ISO 100 ~



ISO 102400 までの拡張モードが設定可能。1 段または 1/3 段階で設定できる。

記録フォーマット

5.9K フルサイズ CMOS センサーと新開発の映像処理プラットフォーム DIGIC DV 7 により、Cinema RAW Light と XF-AVC の記録フォーマットをサポート。

◆アストロデザイン (ASTRO JOURNAL vol.78) より イベント出展予定

○ J-CULTURE FEST 「にっぽん・和心・初詣」2020

会期 2020年1月2日～3日

会場 東京国際フォーラム ホールD1 <https://j-cf.jp/2020/>

8K大画面と5.1chサラウンド音響による、「8K没入感劇場にっぽん NIPPON 8K IMMERSIVE THEATER」にて、日本の魅力を紹介するコンテンツが上映されます。入場無料。

使用機材：INSIGHT Laser 8K Imaging by ASTRO

<https://www.astrodesign.co.jp/product/insight-laser-8k>

○ CES 2020 に出展

会期 2020年1月7日～10日

会場 アメリカ ラスベガスコンベンション&ワールドトレードセンター (LVCC) <https://www.astrodesign.co.jp/event/event-20200101-3729.html>

HDMI2.1のアナライザ、信号発生器を中心に展示。

HDMI Licensing Administrator, Inc. booth (South Hall NO.20220)では最新規格HDMI2.1の説明も日本語・英語で対応。

○光和 2020 最新映像機器内覧会に出展

会期 2020年1月23日～24日

会場 株式会社光和 本社ビル <https://www.astrodesign.co.jp/event/event-20200101-3740.html>

マルチメディアスキャンコンバータやHDMIコンバータボックスを出展。

◆ A-PAB：“新4K8K衛星放送”視聴可能機器台数

(2019年11月までの集計値)

(一社)放送サービス高度化推進協会(A-PAB)では、新4K8K衛星放送”視聴可能機器台数の推移を集計し毎月の報告。今月発表分は(11月末集計)新たに「新チューナー内蔵録画機」の出荷台数が集計に加わったこともあり大幅な伸びとなった。

“新4K8K衛星放送”視聴可能機器台数 単位：千台

分類		10月末累計	11月分	11月末累計
直接受信	① 新チューナー内蔵テレビ	1428	212	1640
	② 外付け新チューナー	217	8	225
	③ 新チューナー内蔵録画機	—	254	254
CATV受信	④ 新チューナー内蔵	542	47	589
合計		2186	521	2707

※ ①, ②, ③: JEITA発表出荷台数、④: JCTAヒアリングによる設置台数

③ 新チューナー内蔵録画機が追加されました。これまでの累計値を11月分としています。(JEITA: 一般社団法人 電子情報技術産業協会 JCTA: 一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟)

千台未満を四捨五入し表記しているため累計や合計が表記数字の計と一致しないことがあります

【A-PAB コメント】

冬のボーナス商戦への対応等で11月の①新チューナー内蔵テレビ 出荷台数は過去最多となる21.2万台となりました。また、11月から③新チューナー内蔵録画機の集計値が新たに加わり、これまでの累計台数が加算されたことにより、単月で52.1万台、累計で270.7万台と大幅な増加となりました。

◆ティアック：dBTechnologiesのデジタル制御が可能なアクティブサブウーハー『SUB 915』および『SUB 918』を全国の設備機器代理店を通じて販売を開始！

ティアック株式会社(本社：東京都多摩市、代表取締役社長：英 裕治)は、イタリアのPA/SRスピーカーブランド dBTechnologiesのデジタル制御が可能なアクティブサブウーハーの新製品『SUB 915』および『SUB 918』を全国の設備機器代理店を通じて販売を開始する。

dBTechnologies

品名・型名・備考・メーカー希望小売価格・発売予定日

アクティブバスレフレックス サブウーハー SUB 915 15インチ 218,000円(税抜) 2019年12月下旬

アクティブバスレフレックス サブウーハー SUB 918 18インチ 278,000円(税抜) 2019年12月下旬



dBTechnologiesのあらゆるフルレンジスピーカーにベストマッチするサブウーハー

RDNet対応によりフルリモートコントロールが可能

過酷な現場にもタフに対応する頑強なキャビネット構造

上端に2つのインテグレートハンドルを備えた堅牢な合板キャビネットは、『SUB 915』が34.8 kg、『SUB 918』が41.8 kgと軽量ながらハイパフォーマンスを実現し、背面にはスムーズなトランスポートのためのキャスト取り付け穴も装備されています。

『SUB900』シリーズは、上端および側面パネルにそれぞれM20マウントが1つずつ装備されており、縦置き、横置きのどちらでも使用できる設計になっています。これにより標準のM20ネジを使用したVIO X, INGENIA, OPERA UNICA等のフルレンジスピーカーと組み合わせて使用できます。

【主な特長】

- 2つのサイズ展開 (15インチ、18インチ)
- 高性能コンポーネントバスレフ設計
- 900W RMS Class-D Digipro™ G3 アンプ採用
- 最大133 dB SPL (SUB918=MAX SPL 134dB)
- オンボードのディレイコントロール
- オンボードのクロスオーバーポイントコントロール
- 縦置き・横置き両対応
- フルリモートコントロール・リアルタイムモニタリングが可能なdBTechnologies AURORA NET 対応

【仕様】 詳細仕様は製品サイトをご確認ください。

【dBTechnologies SUB シリーズ製品サイト】

https://tascam.jp/jp/product/dbtechnologies_sub_900/top

◆オートデスク：Autodesk と欧エアバス、ジェネレーティブ デザインがものづくりと建築にもたらすインパクトを実証



航空機製造大手のエアバスは、ラスベガスのサンズ・コンベンション・センターで2019年11月19日（火）～21日（木）に開催された「Autodesk University」において、ジェネレーティブデザインを活用していかにエンジニアリング、アーキテクチャ、ならびにシステム分野での複雑な課題に対処しているのかに関して詳細を明らかにした。これにより、エアバスはよりスマートで、効率的で、経済性の高いビジネスが可能となると共に、従業員のニーズへのより優れた対応や、環境への悪影響も抑えることができる。

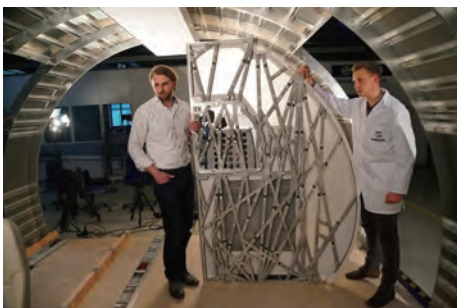
エアバスは、オートデスクのジェネレーティブ デザインを採用することで、性能および安全性の基準を上回る、より軽量の航空機用コンポーネントを開発している。同社は、このアプローチを採用することで、軽量化を実現し、燃料消費量の低減を可能にすることで、航空機による移動が環境にもたらす悪影響を抑えることができる。エアバスはさらに、航空機用部品製造するための工程と空間の改善にも着手している。

また、従業員の労働条件の改善と生産性の向上を容易に達成できるように合理化された物流を実現する、適応性の高い DGNB および LEED 認定工場のレイアウト構築のために、ジェネレーティブデザインの採用を検討している。

バイオニック パーティション 2.0

2015年に、エアバスは「バイオニック パーティション（航空機の客室とギャレーとを仕切る壁と折り畳み補助椅子（ジャンプシート）の次世代の支持構造）」の開発において、ジェネレーティブ デザインの概念実証を初めて行った。とは、エアバスはこの新しい設計アプローチを A320 の航空機の在庫において展開すれば、年間 50 万メートルトン近くに及び CO2 の排出量を削減できると予測している。

エアバスは、さらにジェネレーティブ デザインを活用して、バイオニック パーティション 2.0 開発に着手しています。これは、



プラスチック製のパーティション用の 3D プリンタで作成された型を作成し、すでに航空機への応用性の実証されている



合金で部品を鋳造することができるため、従来品と同程度の強度と軽量性および低価格化を実現している。

エアバスは、また

ジェネレーティブデザインを活用して、A320 の垂直尾翼（VTP）の前縁を含む、他の構造的な航空機用コンポーネントの見直しを図っている。航空機の VTP（または垂直安定板）は、方向安定性をもたらす、左右方向の動きに起因する空気力学的な非効率性を低減することを目的としている。

未来を作る工場

エアバスは自社工場の建築設計、レイアウト、およびワークフローにジェネレーティブ デザイン活用を検討している。

エアバスではまず、色んな工具が必要とされる A350 の翼の組立ラインにおける様々な世代の A350 の多様な翼に合わせて工具の場所と移動経路を最適に配置し、混雑や障害を最小限に抑えて工場の構成をいかに行うことができるのかを解明し、新たな組立工場などの建設を予定する際にジェネレーティブ デザインの採用を検討しています。これにより、同社は、物流をより効率化し、より充実した労働力を擁してエンジンの組立をより迅速に行うことが可能になる。

【関連ビデオ】

<https://damassets.autodesk.net/content/dam/autodesk/draft/8848/Video1.mp4>

ジェネレーティブ デザインは、エアバスが現在考えている 2 つの方針をもたらした。それらは、型破りな占有面積を持つより大きな建物または、より小さな矩形の占有面積に収まるように最適化された工場の実現をもたらした。



APAC Communications

Hide Shimizu

Mobile: +81-70-4113-4371 hide.shimizu@autodesk.com